

令和3年度 学校評価について

学校評価や授業評価のアンケート結果などを参考に、令和3年度の教育活動について振り返りをしました。学校評議員からも御意見をいただき、今後の教育活動の重点と改善策についてまとめましたので御報告いたします。

1 令和3年度の重点目標

1	【確かな学力の保障と発展】 基礎基本及び商業に関する専門知識の習得、ICT有効活用による「わかる授業」と知識の用途の明示（Google Workspace for Education）、主体的・対話的で深い学びに結びつく学習指導
2	【言語活動の充実】 コミュニケーション能力の育成、主体的に発言する態度と意志を伝える能力の育成
3	【自主性のある生徒の育成】 リーダーシップの育成、積極的に参加する意欲の育成
4	【部活動の充実】 生徒に寄り添う姿勢と信頼関係
5	【進路指導の発展を見据えた指導】 ICTを活用した基礎基本の習得、早い段階での進路目標の設定
6	【防災教育と健康・安全指導の充実】 安心安全の環境づくり、緊急時の対応と外部機関との連携
7	【心のケアの充実】 教育相談とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用、必要な情報の共有とプライバシーの保護、孤立させない環境作り
8	【開かれた学校づくり】 ボランティア活動の充実、対外的な行事の参加、地域への広報活動、外部講師の活用

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 基礎基本的な学力の保障	B	教材開発を推進し、補講やオンライン授業を有効に展開する。	A	A
	2 商業などの専門知識の習得	A	資格取得を推奨し、目的意識を持って授業と補講に臨ませる。	A	A
	3 ICTを有効活用した学習指導	B	授業でのICTの活用場面を増やし、教員のICT活用力を高める。	A	A
	4 言語活動の充実	B	課題発見探究型の学習を展開し、個人発表にも取り組ませる。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	資格検定試験への挑戦やコロナ禍の中で行われているオンライン授業等でのICT有効活用は、時代のニーズや時節に対応しているものであり、引き続き指導をお願いしたい。				
生徒指導	1 自主性のある生徒の育成	B	平素の生活指導とともに、行事や生徒会活動を充実させる。	A	A
	2 部活動の充実	B	限られた時間を大切に、教員も積極的に活動と指導を行う。	A	A
	3 心のケアの充実	A	生徒に加え、悩みを持つ保護者にもカウンセリングを推奨する。	A	A
	4 携帯端末・SNS等利用に関する指導	B	有効かつ適切な利用について、専門講師による研修を行う。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	コロナ禍の中で工夫がみられる。部活動の活躍は素晴らしい。柔道部の全国大会中止は残念だが、努力した力は残る。携帯端末など文明の利器は利用の仕方によっては弊害が生じることを自覚することが大切であるので、効果的な指導をお願いしたい。				
進路指導	1 キャリア教育の推進	B	各進路行事の目的をより明確化し、企画と準備を入念に行う。	A	A
	2 進路目標の早期設定	B	面談や学校通信の活用とともに、インターンシップを奨励する。	B	A
	3 就業率の向上	B	ハローワークと連携して就業に関する情報提供と指導をする。	B	B
	4 進路達成率の向上	B	企業研究、履歴書、面接等の受験対策指導を、より早期から行う。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	コロナ禍や定時制ゆえの時間的な制約がある中でよく努力をしているものの、就職内定率が少しでも上がるようさらなる指導を願う。				
学校安全他	1 防災教育の充実	A	避難訓練に加え、環境問題に関連した防災講話を充実させる。	A	A
	2 健康・安全指導の充実	A	科学的知見と行政方針をよく確認して対策と指導を継続する。	A	A
	3 施設・設備の管理と充実	B	安全点検を充実させ、県に予算要求しながら環境整備に努める。	A	A
	4 開かれた学校づくり	B	ボランティア活動を継続する。学校通信やHPの充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	避難訓練の実施により防災意識の向上がなされている。夜間通学の交通安全対策と交通安全指導を十分にを行うようお願いしたい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 基礎学力を保障する学習指導の展開と言語活動の充実	授業研究により学習指導力の向上を図るとともに、授業での活用と教員の研修機会を拡大してICTの効果的利活用を推進する。また、「総合的な探究の時間」において課題探究型の学習への取り組みや成果発表会などで言語活動を充実させる。
② 生徒の自主性の育成と自律した生活への改善指導	行事や生徒会活動、部活動などの充実のために、制約がある中でも教職員が生徒とよく関わり連携して取り組む。また、スマホ依存脱却のために専門講師講話を導入するなどし、学びの土台としての自律ある生活の確立について指導を深める。
③ 進路目標達成のための早期の目標設定と各種指導等の対策	面談指導に加えて、新たにインターンシップの奨励やハローワークと連携した就労支援などにより職業従事体験の機会を設けるなどし、低学年からの進路目標設定を促す。また、就職・進学とともに各種の受験対策指導を早期化して実施する。